

3/8 早稲

# 核共有政策許されない

サーゴーさんが

岸田首相に書簡

【ニューヨーク=共同】

広島で被爆したカナタ在住のサーゴー節子さんは、「政府として議論する」との考えを表明。岸田氏は「政府として議論する」とは考えていない」と否定した。

米国の核兵器を配備し共同運用する「核共有」政策について「被爆国日本にどうか」として許されるものでしようか」として、日本が核兵器を「使用する側に回る」という選択肢」はあり得ないと考えを強調した。

安倍晋三元首相が二月下旬のテレビ番組で、日本も核共有政策を議論すべからず断絶するための国際法を



サーゴー節子さん

強める」と訴えた。

ロシアのプーチン大統領が核部隊の戦闘警戒態勢を命じた」としては「原爆投下の惨禍を身をもって体験した一人として、このような核の脅しを決して許すことはできません」と強調した。その上で、世界が「核の脅し合いの連鎖」に陥るのか、「核の恐怖から共に抜け出していくのか」は

日本の行動にかかっていると指摘した。

サーゴーさんは、議論を呼び掛けた「一部の政治家」の声に「大変に驚き立つて」いるとした上で、

被爆地広島出身の岸田氏が否定したのを聞いて「安堵しました」と表明。必要なのは核兵器を持ち込む」とではなく、「核兵器を禁止